

建設地	： 岡山県倉敷市	竣工	： 令和3年9月	敷地面積	： 866.77㎡
地域区分	： 6地域	用途	： 専用住宅	延床面積	： 128.07㎡
設計者	： 一級建築士事務所（有）バジヤン	構造・階数	： 木造軸組・地上1階	建築面積	： 132.72㎡

■提案の概要

- 瀬戸内海沿岸の平野に位置し、夏季には海からの湿った風により高温多湿になるため、床下に湿気がこもらない石場建てを採用し、土壁や無垢材など調湿性がある材で構成することによって、家の傷みを防ぐなどの湿気対策を講じた住宅。
- 気候がよい春と秋には家の中を風が通り抜けるよう開口部の大きさや位置を計画するとともに、風の流れを調整しやすい引戸形式の内部建具を配置することで東西、南北の風の通り道を設けている。
- 晴れの日が多く夏季の日射が厳しい気象条件に対応するため、軒庇を適切な高さで深さに計画し、夏季は日射を遮り、冬季は豊かな日射を室内に取り込めるようにしている。
- 倉敷に多く残る古い家との景観に配慮した瓦屋根、焼杉板張りの外壁、倉敷格子などを採用し、地域に根ざした建物形態や意匠の継承を図っている。敷地内に地域の植生を活かした小さな森をつくることで、地域景観への寄与と生物の生息環境の保全に努めている。
- 構造材の桧や地松、板材の杉、畳のイグサなど岡山県産材を使用することにより、地域産業の継続と文化の継承に協力するとともに、建設時の運輸エネルギー削減にも貢献している。



周辺の自然環境との調和を図った小さな森のある敷地





季節により空間の大きさが調整可能なLDKと茶の間



伝統的な意匠や材料で構成した外観

■地域の気候風土への適応・環境負荷低減対策

凡例：気候風土への適応 

環境負荷低減対策 

□高天井 



LDK の天井高さを 2,806～5,493mm としている。




高天井



多層構成の建具

□多層構成の建具  

南面の LDK と茶の間の掃き出し窓を内障子、木製ガラス戸、木製格子網戸の多層構成の建具としている。

□部材現し 



断面の大きな無垢の構造材を使用した軸組、小屋組みを現しにしている。




部材現し



土塗壁

□土塗壁  

竹小舞下地の厚さ 70mm の土塗壁としている。

□網代天井 

杉桁の粉板を縦横に編んだ網代天井を採用している。



網代天井



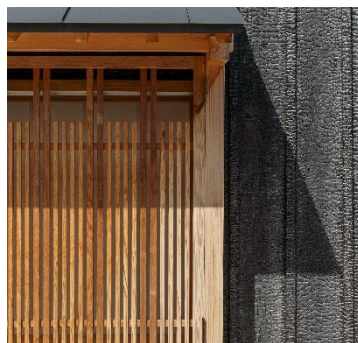
畳（稲わら畳床）

□畳（稲わら畳床）  

岡山県産のイグサの畳表や稲わら畳床、倉敷市内の専門工場で作られる畳縁を使用している。

□地域産の材料の使用  

岡山県産の構造材・仕上げ材、土壁などを使用している。



地域産の材料の使用



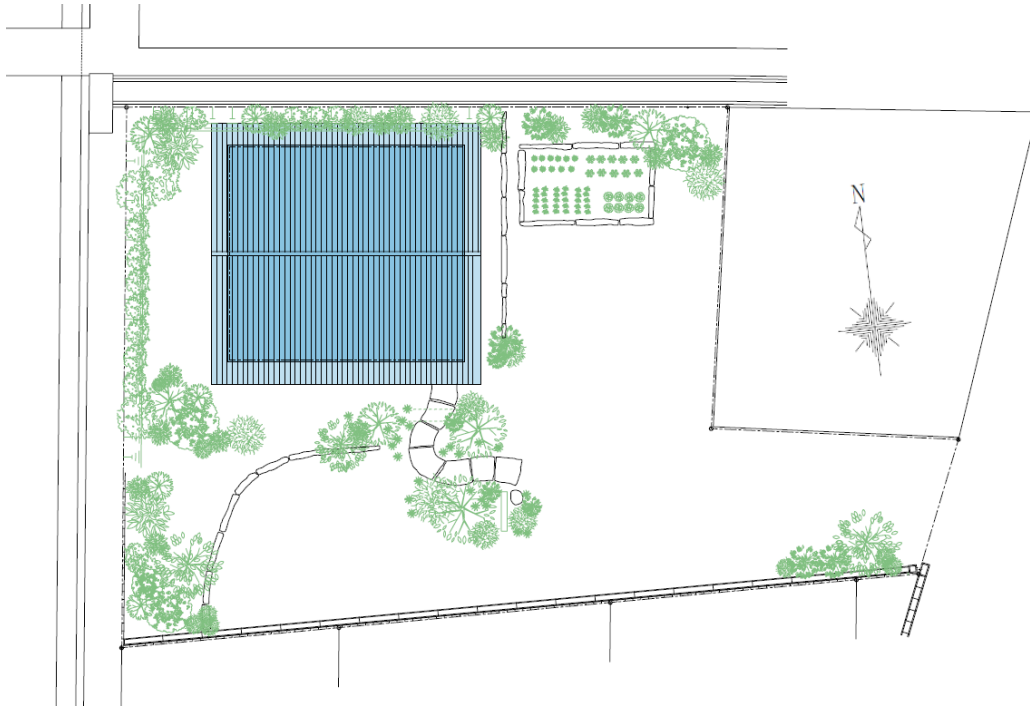
地域の建築職人、大工の登用

□地域の建築職人、大工の登用  

地域に根差した大工、職人が施工することにより、技術や文化の継承を図っている。

■エネルギー性能（採択時）

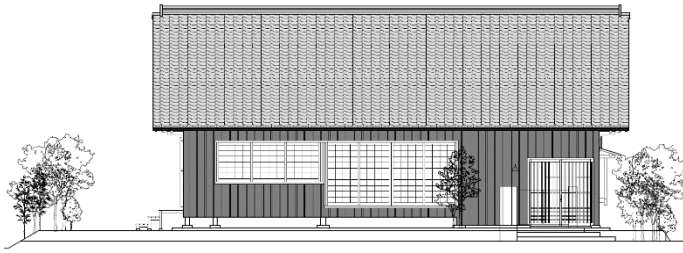
項目	基準値	設計値
評価方法	Web プログラム 気候風土適応住宅版による評価	
地域区分	6 地域（岡山県倉敷市）	
外皮平均熱貫流率（ U_A 値）	0.87 以下	1.15 W/ (m ² ・K)
一次エネルギー消費量	149.4 以下	125.0 GJ/ (戸・年)
一次エネルギー消費性能（BEI）	1.0 以下	0.82



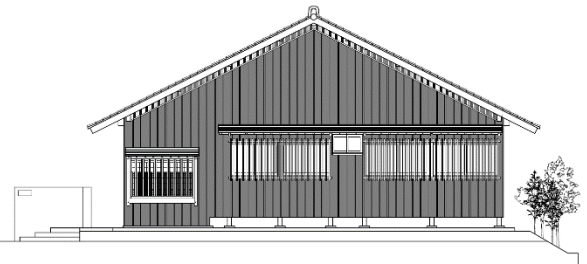
配置図



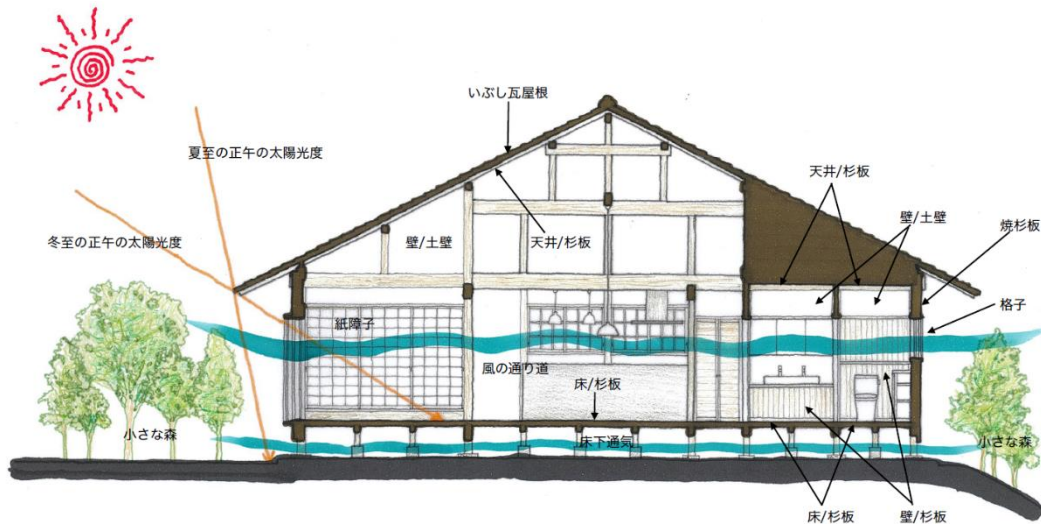
平面図



南側立面図



東側立面図



Appeal Point1-1/ 伝統構法

- ・「木と木を仕口で組みあげる」日本の木造文化の実践と伝承
- ・化粧で使用する良材の多用→林業の活性化
- ・大工、職人の腕の見せ所満載→技術の研鑽、伝承

Appeal Point1-2 / 石場建て

- ・床下を風が抜けるので湿気がこもらない
- ・床下開放なので、設備も躯体も点検や修理がしやすい

Appeal Point2 / 倉敷の気候を活かす

- ・多湿なので「土」「木」「紙」という調湿性能がある材で内部を仕上げた
- ・夏の厳しい日差しは深い軒でさえぎり、冬の豊かな日射は室内まで取り込む設計
- ・春と秋は家の中を風が抜けるよう、東西、南北に風の通り道を設けた

Appeal Point3 / 倉敷の意匠

- ・外観は瓦屋根、焼杉板、格子と倉敷では一般的な意匠を用いた
- ・広い敷地を活かして敷地内に目隠しを兼ねて「小さな森」を設ける事で、倉敷の景観に寄与したい

断面図

■お施主様の声

住むにつれ深い味が出る木材を使い、風通しがよく安心して長く住み続けられる家を希望しました。幼少期に設計してもらった実家の住み心地のよさを実感し、デザインや家づくりに対する思いにも賛同できるバジヤンさんに依頼しました。家の中心となるLDKは家族が集まれるよう広くしてもらい、一方、キッチンや水回りの動線は家事効率を考慮し、コンパクトにまとめた間取りとしてもらいました。石場建ては以前から関心があり、床下の風通しが良いうえに最近多い水害に対しても強く、修繕がしやすい工法なので安心です。東側の格子は和風の雰囲気がよく似合い、風を通しながら外部からの視線を遮ってくれるのでとても気に入っています。風通しや日射の調整、無垢の木の手入れなど、できる限り自然を感じながら気持ちのいい生活を心がけています。

■設計者の声

家事効率と子供と過ごす時間を楽しむことの両立を重視し、キッチンから全体が見渡せ、子供の様子が把握できるようにしました。広いLDKを設け、上部の壁を抜いて緩やかにつなげることで、風通しがよく家族が集まりやすいおらかな家になるよう心掛けました。外壁の焼杉板は50年程度もつと言われ、取り換える時まで風雨から土壁を保護するため、材木店の職人によって丁寧に焼かれたものです。天井や建具の網代は、職人が手で割いた杉材を用いており、その技術の高さを継承するとともに、経年変化の美しさを大切するために使っています。小さな森は、景観や生物の生息環境へ寄与するとともに、敷地外からの視線や夏季の日射を遮蔽するために設けました。気候風土適応型住宅について、設計者や施工者が話を聞きに来るようになり、少しずつ広がりを感じています。